

日本赤十字広島看護大学

Staff Development/SDマップ 職員用 (ver.3.0)

- 【目的】** 赤十字の人道の理念に基づいた本学の教育理念・目標のよりよい実現に向け、教職員が専門職者としてだけでなく教養人としても学生等の目標となれる人間性を培うことが求められる。そのためには、各教職員が大学の理念を理解し教育・学習支援に対する能力を最大限に高めていく必要があり、組織的に取り組む必要がある。
このSDマップは、日本赤十字広島看護大学の職員に必要な資質・能力(コンピテンシー)を示し、自身のキャリア形成とともに、さらに組織的に支援することを目的とする。
- 【活用方法】** ①職員が自身の目指す能力の指標とし、自己評価や目標設定をしながら資質・能力向上の自己研鑽を行う（自己評価）。
②本学の職員として必要な能力向上のための取り組みとして、段階別のSD研修を実施する（SD研修プログラム作成）。
- 【SDマップの構成】** 本学SDマップは、それぞれの以下に示す段階（職位）ごとの「期待される主な役割」に基づき、8つのコンピテンシーに分類された「期待される主な能力」によって構成する。
- I 大学組織の理解
 - II 赤十字の原則を活用する力
 - III 事務職員としての基礎資質
 - IV 教育全般を見渡す力
 - V 学生を支援する力
 - VI 地域を支援する力
 - VII 情報リテラシー
 - VIII 自己啓発・自己教育力
- 職員のコンピテンシーの区分は、「初級（自立してできる段階：主事・スタッフ）」「中級（調整できる段階：主任）」「上級（支援・指導できる段階：係長）」および「組織的活動ができる段階：課長および次長・事務局長」の4段階に区分した。
- 上述のコンピテンシーについて、職位や職務内容に応じて求められる能力のレベルには違いはあるものの、職位にかかわらず共通して求められる能力項目を「共通」、職位段階別に求められる具体的なレベルの能力項目を「段階別」として示した。
- コンピテンシーごとの到達度の評価時期・方法、関連するSD研修を示した。

区分	初級	中級	上級	組織的なリーダー		
段階	自立してできる段階	調整できる段階	支援・指導できる段階	組織的活動ができる段階		
職名の例	主事・スタッフ	主任	係長級	課長級	次長・事務局長	
期待される 主な役割	○大学職員として基本に則った行動・判断 ○大学職員としての基本の理解 ・使命の理解 ・業務上の基礎知識の習得	○行動によって身に付けた赤十字経験の周囲への働きかけ ○後輩支援	○使命の実現に向けた業務遂行 ・現状を把握 ・PDCAサイクルの実施（進捗管理） ・現場の責任者として円滑な業務推進 ・問題解決 ○部下指導 ・部下の能力を把握 ・指導・命令・情報伝達 ・コミュニケーション、チームワーク	○使命の実現に向けた組織運営 ・短期（１～３年程度）構想、部内全体を意識 ○事業計画の立案・遂行 ・部内の計画立案 ・部内の進捗管理 ・経営資源の活用 ○業務の改善・革新 ・現状を把握する ・職場の活性化 ・職場の事業水準のレベルアップ	○人を育成する ・人材開発、活用 ・育成環境づくり（場の形成） ・一貫性と計画性のあるOJT ・研修機会の付与、自己啓発の奨励 ・公正な評価	○使命の実現に向けた組織運営 ・中期（３～５年程度）構想、施設全体を意識 ○（将来構想に沿った）戦略を策定する ・取り巻く環境の認識 ・戦略の構築、戦略の推進 ○事業計画の総括・管理 ・基本方針の策定 ・事業全体の進捗管理
※日本赤十字社例規類集第4章 日本赤十字社職員の研修について 別紙2より						

※日本赤十字社例規類集第4章
日本赤十字社職員の研修について
別紙2より

【期待される主な能力】

研修区分			初級	中級	上級	組織的なリーダー		評価時期・方法	SD研修の例
			自立してできる段階	調整できる段階	支援・指導できる段階	組織的活動ができる段階			
			主事・スタッフ	主任	係長級	課長級	次長・事務局長		
赤十字 プライド・コン プライアンス	Ⅰ 大学組織の理解	共通	■ 本学の歴史について理解できる ■ 学園本部・本学の組織体制について理解できる ■ 学園本部・本学の精神と教育理念について理解できる ■ 学園本部・本学の運営方針について理解できる（中期目標、計画など） ■ 組織体制上のルールを理解できる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	日本赤十字学園本部や本学主催の新任教職員研修への参加、報告会
		段階別	I -1. 大学組織とその役割を知る I -2. 意思決定機関について理解できる I -3. 場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとる必要性を理解できる I -4. 本学の大学運営に関する現状と課題を理解できる I -5. 組織が発展するための情報交換に参加できる	I -1. 大学組織の中で自己の役割を果たすことができる I -2. 意思決定機関に意見を伝えることができる I -3. 場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとることができる I -4. 自身の立場や役割に応じて、大学運営に関する情報共有ができる I -5. 組織が発展するための情報交換の場で発言することができる	I -1. 大学組織の中で中堅的な役割を果たすことができる I -2. 意志決定機関に意見を伝えることができる I -3. 場や状況に応じて所属する組織を意識した立場・役割をとることについて部下に助言できる I -4. 大学運営に、自身の立場や役割に応じて参画できる I -5. 組織が発展するための情報交換の場で意見をまとめることができる	I -1. 大学組織の中で重要な役割を果たすことができる I -1. 意志決定に貢献できる I -2. 組織体制上のルールを導くことができる I -3. 大学運営における効率的・効果的な情報共有システムの作成を支援できる I -4. 組織が情報交換できる環境を整えることができる	I -1. 大学組織全体を統括できる I -2. 意志決定に関与できる I -3. 組織体制上のルールを導くことができる I -4. 大学運営における効率的・効果的な情報共有システムを作ることができる I -5. 課題に対して関係機関と協力した取り組みができる		
赤十字 プライド・コン プライアンス	Ⅱ 赤十字の原則を活用する力	共通	■ 施設内外の赤十字の諸活動に積極的に参画できる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	学園本部・日本赤十字社（本社・広島県支部）主催の階層別研修等への参加、報告会
		段階別	Ⅱ -1. 赤十字の使命や基本原則が理解できる Ⅱ -2. 赤十字の基本原則を教育活動と関連付けて考えることができる Ⅱ -3. 赤十字の看護職育成の目的と大学の教育方針の関連が理解できる Ⅱ -4. 赤十字の理念に基づいた諸活動について、学生の実践モデルになる必要性を理解できる	Ⅱ -1. 赤十字の基本原則に基づいた教育活動に協力できる Ⅱ -2. 赤十字の看護職育成の目的を教育活動と関連付けて考えることができる Ⅱ -3. 赤十字の理念に基づいた看護について自分のことばで学生や同僚に語ることができる Ⅱ -4. 学生や教職員に対し、施設内の赤十字の諸活動への参画を呼び掛けることができる	Ⅱ -1. 赤十字の基本原則に基づいた教育活動を推進できる Ⅱ -2. 赤十字の看護職育成の目的を教育活動と関連付け、教員と協働できる Ⅱ -3. 業務の効果や効率をエビデンスに基づき検証・試行・向上させることができる Ⅱ -4. 学生や教職員に対し、施設内外赤十字の諸活動への参画を呼び掛けることができる	Ⅱ -1. 赤十字の基本原則に基づいた大学の経営方針を推進できる Ⅱ -2. 赤十字の理念である人道の具現化に向けた看護教育を推進できる Ⅱ -3. 赤十字事業の推進者として、学生や教職員と協力して地域社会に貢献できる Ⅱ -4. 学生や教職員が、施設内外赤十字の諸活動に参画できる体制をつくることができる			

研修区分				初級	中級	上級	組織的なリーダー		評価時期・方法	SD研修の例
				自立してできる段階	調整できる段階	支援・指導できる段階	組織的活動ができる段階			
				主事・スタッフ	主任	係長級	課長級	次長・事務局長		
実務遂行力 概念構築力	Ⅲ 事務職員としての基礎資質	A 実務能力・管理運営	共通	■業務に必要な用語や概念を理解できる ■大学運営・業務に関する取り組みに貢献できる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	学園本部・日本赤十字社（本社・広島県支部）主催の階層別研修や外部団体主催研修への参加、報告会
			段階別	Ⅲ-A-1.業務に必要な機器・用具・システムの基礎機能を利用できる Ⅲ-A-2.指示された業務を期限までに正確に遂行できる Ⅲ-A-3.業務改善への取り組みができる	Ⅲ-A-1.業務に必要な機器・用具・システムの応用機能を利用できる Ⅲ-A-2.業務を計画的に遂行できる Ⅲ-A-3.根拠を持った判断や行動ができ、論理立てた説明ができる Ⅲ-A-4.小規模な企画の立案ができる	Ⅲ-A-1.方針や目標を理解し、部署の問題解決に取り組むことができる Ⅲ-A-2.組織運営に関与し、目標達成に貢献できる Ⅲ-A-3.業務遂行上の問題を発見し、問題を発見した際には進んで解決することができる Ⅲ-A-4.	Ⅲ-A-1.部署の目標を設定し、達成するための計画を策定・推進している。 Ⅲ-A-2.課内業務の進捗を管理し、コスト意識を醸成することができる Ⅲ-A-3.人部署の課題を全学的視点で解決策の模索・立案し解決できる	Ⅲ-A-1.業務改善に有効な機器・用具・システムの導入を推進できる Ⅲ-A-2.適切な人事労務管理ができる Ⅲ-A-3.事務局内の効果的な組織体制を構築できる Ⅲ-A-4.経営的観点から事業運営ができる		
対人対応力	Ⅲ 事務職員としての基礎資質	B 対人関係能力	共通	■社会人としてのビジネスマナーを実践できる ■業務を円滑化するためのチームワークを発揮できる ■職務において必要な事項を報告・連絡・相談できる ■組織における自己の役割を果たすことができる ■大学内の教職員と自ら積極的にコミュニケーションをとることができる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	学園本部・日本赤十字社（本社・広島県支部）主催の階層別研修や外部団体主催研修への参加、報告会
			段階別	Ⅲ-B-1.自発的・積極的に関わりを持ち良好な関係性が構築できる Ⅲ-B-2.報告・連絡・相談が適切に使い分けられることができる Ⅲ-B-3.率先して協力し、最適な視点を備えた言動ができる	Ⅲ-B-1.相手の意図をくみ取り、立場や心情を踏まえたうえで柔軟な対応ができる Ⅲ-B-2.自発的・積極的に関わりを持ち、必要な協議や協力が得られる関係性が構築できる Ⅲ-B-3.同僚や会社の状況を把握し、機を逃さず支援ができる	Ⅲ-B-1.関係者との良好な関係を構築し、目的や意味を伝えながら動機づけができる Ⅲ-B-2.組織や利害関係者との連携・折衝等において方向づけや合意形成を促すことができる Ⅲ-B-3.日ごろからの細やかな気遣いをもって組織内外と信頼関係を築くことができる Ⅲ-B-4.率先して協力し、最適な視点を備えた言動ができる	Ⅲ-B-1.組織や利害関係者との連携・折衝等において方向づけや合意形成を主導することができる Ⅲ-B-2.方向性や計画をわかりやすくメンバーに伝え、中心となって進めることができる Ⅲ-B-3.課内の職場環境づくりができる	Ⅲ-B-1.大学運営や教務活動に関する施設内外の情報交換が行える Ⅲ-B-2.事務局全体でリーダーシップを発揮できる Ⅲ-B-3.外部とのネットワークづくりができる Ⅲ-B-4.事務局全体での職場環境づくりができる		
赤十字プライド・コンプライアンス	Ⅲ 事務職員としての基礎資質	C 職業倫理	共通	■倫理的感性を高めるための自己研鑽に取り組むことができる ■大学職員としての倫理観を言語化し職業倫理・研究倫理に基づき行動することができる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	・自施設の現状を踏まえたリフレクション研修 ・個人情報の取り扱いについての研修 ・コンプライアンス研修
			段階別	Ⅲ-C-1.大学内外で生じやすい倫理的問題を理解できる Ⅲ-C-2.法令・規則を遵守して業務ができる	Ⅲ-C-1.ルールを遵守したうえで、変化に気を配り安全に必要な確認ができる Ⅲ-C-2.大学内外で生じた倫理的問題に適切に対処することができる Ⅲ-C-3.コンプライアンスの重要性を後輩に伝えることができる	Ⅲ-C-1.自ら倫理的行動の模範を示すことができる Ⅲ-C-2.倫理的問題が発生した場合は、積極的に解決に向けて取り組むことができる Ⅲ-C-3.大学内外で生じた倫理的問題に適切に対処し、職員等のモデルとなり、助言することができる Ⅲ-C-4.部下に対しコンプライアンス意識の醸成と徹底ができる	Ⅲ-C-1.自ら倫理的行動の模範を示すことができる Ⅲ-C-2.倫理的問題が発生した場合は、積極的に解決に向けて取り組むことができる Ⅲ-C-3.大学内外で生じた倫理的問題に適切に対処し、職員等のモデルとなり、助言することができる Ⅲ-C-4.心理的安全性を備えた組織を構築し、メンタルヘルスケアや労務管理ができる	Ⅲ-C-1.施設全体におけるコンプライアンス体制づくりができる ・業務の透明性の確保 ・業務の説明責任を果たす ・リスク管理 Ⅲ-C-2.大学内の倫理的問題を扱う委員会を主体的に運営できる		

研修区分			初級	中級	上級	組織的なリーダー		評価時期・方法	SD研修の例
			自立してできる段階	調整できる段階	支援・指導できる段階	組織的活動ができる段階			
			主事・スタッフ	主任	係長級	課長級	次長・事務局長		
実務遂行力	IV 教育全般を見渡す力	共通	■ 高等教育に関する基本的事項（法規、学則、規程など）を理解できる ■ 教育に必要な最新の情報に関する学習を積極的に行うことができる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	学園本部・学会や外部団体主催研修等への参加、報告会
		段階別	IV-1. 教育活動に関する知識について学習することができる	IV-1. 学内で行われている教育活動に関して概要を把握することができる	IV-1. 学内で行われている教育活動に関して改善の提案ができる	IV-1. 教育システムを管理するための知識・技術を持つ IV-2. 大学の目的・目標達成のための実施計画を立てることができる IV-3. 教育課程の評価を多面的に継続して行うことができる IV-4. 社会情勢の変化に応じたニーズを把握することができる IV-5. 高等教育に関する国内外の動向を把握し、本学の目指す方向と課題を検討できる IV-6. 学内職員の構成と専門性を分析し、個々の職員の資格取得などキャリア発達を支援できる	IV-1. 教育システムを管理するための知識・技術を持つ IV-2. 大学の目的・目標達成のための実施計画を立てることができる IV-3. 教育課程の評価を多面的に継続して行うことができる IV-4. 社会情勢の変化に応じたニーズを把握することができる IV-5. 高等教育に関する国内外の動向を説明し、本学の目指す方向と課題を示すことができる IV-6. 学内教職員の構成と専門性を分析し、個々の教職員の学位や資格取得などキャリア発達を支援できる		
実務遂行力	V 学生を支援する力	共通	■ 学生の人権を尊重した姿勢と言動に関わることができる ■ 学生の多様なニーズに柔軟に対応し、個別指導ができるよう動くことができる ■ 学生の生活態度や悩みに対して個別に対応できるよう動くことができる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	学会や外部団体主催研修等への参加、報告会
		段階別	V-1. 適切な学生相談・指導ができるように、教職員に相談できる	V-1. 適切な学生相談・指導ができるように、教職員と連携し、適切に対応できる	V-1. 適切な学生相談・指導ができるように、他の教職員に助言ができる V-2. 多様な問題を持つ学生に対し、個別または組織的に対応できる	V-1. 学生集団の傾向を的確に判断し、適切な人材、資源、方法を活用し、問題解決を方向づけることができる V-2. 適切な学生指導体制をつくり、学びやすい学校環境を整備できる			
実務遂行力	VI 地域を支援する力	共通	■ 社会貢献のニーズを把握できる					時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	H C C 活動報告会等
		段階別	VI-1. 本学の社会的役割や意義（価値、特質）の発信の方法が理解できる VI-2. 地域や企業との連携事業が理解できる VI-3. 大学の地域の資源としての活用について理解できる	VI-1. 本学の社会的役割や意義を発信することができる VI-2. 地域や企業との連携事業の企画・運営に参加できる VI-3. 本学と地域や自治体との協働により、大学の地域の資源として活用するための取り組みに参加できる	VI-1. 本学の社会的役割や意義を活用し、社会に貢献できる VI-2. 大学の社会的役割や意義（価値、特質）を用いた社会貢献について、他の職員に助言できる VI-3. 地域や企業との連携事業の企画・運営ができる VI-4. 本学と地域や自治体との協働により、大学を地域の資源として活用するための取り組みを創造できる	VI-1. 保健・医療・福祉の社会的役割や意義を用いた社会貢献について、組織的な取り組みができる VI-2. 地域や自治体が、地域の資源として大学を活用できるように、体制を整備できる			

研修区分			初級	中級	上級	組織的なリーダー		評価時期・方法	SD研修の例	
			自立してできる段階	調整できる段階	支援・指導できる段階	組織的活動ができる段階				
			主事・スタッフ	主任	係長級	課長級	次長・事務局長			
実務遂行 力	Ⅶ 情報リテラシー	共通	■情報を適切に収集し、管理できる ■情報システムの基礎知識を理解、活用できる						時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	全職員対象の情報リテラシーに関する研修会を年1回受講
		段階別	Ⅶ-1. 情報管理の目的を理解できる 情報機器の利用方法を理解できる Ⅶ-2. 自己のもつ情報の管理ができる	Ⅶ-1. 他者と協働して、情報を適切に収集し、管理できる Ⅶ-2. 学生と教職員が情報を適切に取り扱うように助言できる Ⅶ-3. 情報機器を利用した情報管理ができる	Ⅶ-1. 情報管理システムの利用マニュアルを作成できる Ⅶ-2. 学生と教職員が情報を適切に取り扱うように助言できる Ⅶ-3. 学生や教職員が情報機器を利用した情報管理ができるように助言できる	Ⅶ-1. 学内および学外とつながる学術情報ネットワーク環境を整備できる	Ⅶ-1. 学内および学外とつながる学術情報ネットワーク環境を整備できるような体制を整えることができる			
赤十字 プライド・コンプライアンス	Ⅷ 自己啓発・自己教育力	共通	■他者との関係の中で省察的に自己の傾向に気づき、人間性を豊かにするように努めることができる ■他者の意見や価値観も取り入れながら、人として成長していけるよう自己研鑽を続けていくことができる ■大学事務職員としての自己の在り様を意図的に問いかけることができる ■職業生活上の短期・長期目標をもつ ■職務上のやりがいを見出し、探求的な学習意欲を持ち続けることができる						時期：期中・年度末 方法：勤務評定による自己評価および評定者評価・期中面談・期末面談	学会や外部団体主催研修等への参加、報告会
		段階別	Ⅷ-1. 自己の職業上の課題を省察できる Ⅷ-2. 成長意欲を持つことができる	Ⅷ-1. 学会や研修に参加する Ⅷ-2. 結果やプロセスから振り返り学びの質を高め業務に活用することができる	Ⅷ-1. 学会や研修に積極的に参加する Ⅷ-2. 知識・スキル等を整理し自分の強みや専門性を継続的に高めることができる Ⅷ-3. 能力レベルに合わせて環境整備し教育機会の提供ができる	Ⅷ-1. 学生や他の職員の役割モデルとすることができる Ⅷ-2. 職員が視野を広げるための国内外の研修を推奨できる Ⅷ-3. 能力レベルに合わせて課題を見極めた指導・助言による教育機会の提供や環境整備ができる	Ⅷ-1. 職員の自己啓発活動を評価することができる Ⅷ-2. 職員が国内外の研修に積極的に参加できるような体制を整えることができる			